

広域連携による市町村事務の共同実施モデル構築事業 成果報告書

幼児教育・保育の質の向上に向けた
人材の育成の広域化と人材確保

福山市

目次

1. 基本情報

1 – 1. 連携地域の概要

2. 幼児教育・保育の質の向上に向けた人材育成の広域化と人材確保に係る事業概要

2 – 1. 背景と目的

2 – 2. 本事業での取組内容について

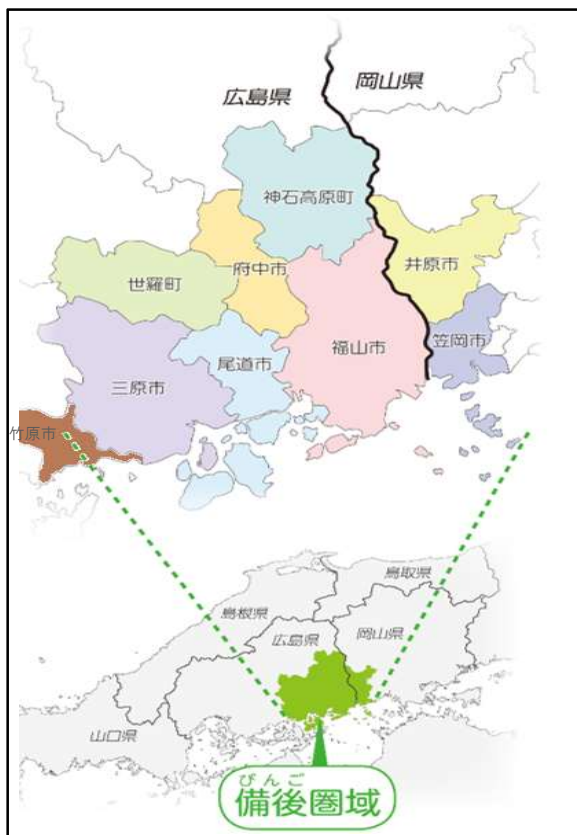
- ①連携するにあたっての課題
- ②連携に向けた取組・役割分担
【人材確保・人材育成・人材定着】
- ③取組に対する課題と解決方法について
- ④取組の経緯・進捗
- ⑤解決できなかった課題とその解決に向けた展望

3. 事業の実施結果

4. 今後の展望

1. 基本情報

1-1. 連携地域の概要

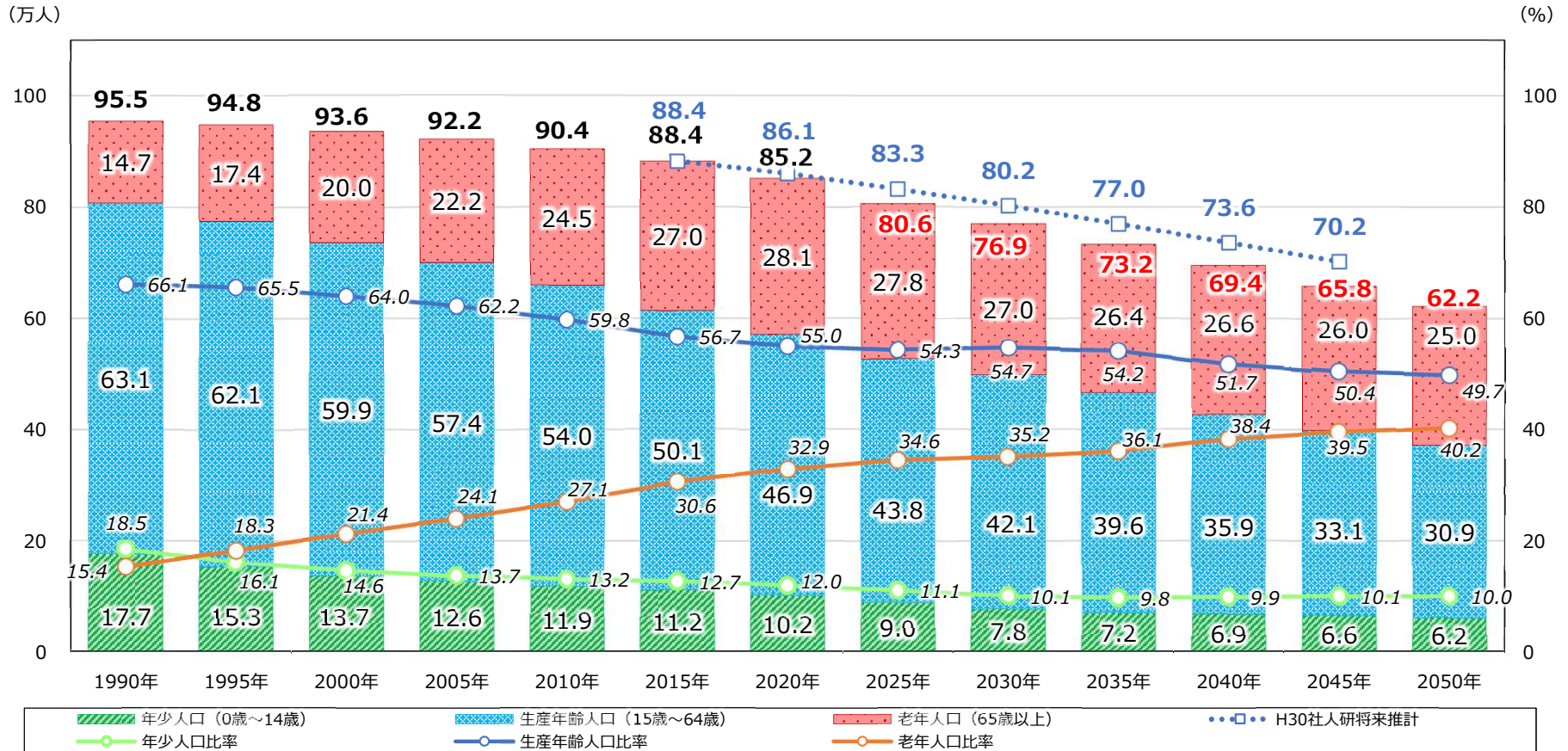


- 備後圏域は、広島県福山市（連携中枢都市）、三原市、尾道市、府中市、竹原市、世羅町及び神石高原町並びに岡山県笠岡市及び井原市の7市2町から構成している。
- 日常生活圏が広島県と岡山県の県境を越えて重なることや歴史的な背景による結びつきの強さがある。
- 1964年（昭和39年）には、一部の地域を除いて備後工業整備特別地域に指定され、瀬戸内海地域における中核的な工業拠点として大きく発展してきた。現在も製造業が集積しており、ものづくり産業は本圏域最大の稼ぐ力となっている。
- 本圏域には広島空港や国の重要港湾である福山港・尾道糸崎港があり、国際物流拠点を形成している。また、東西方向・南北方向にそれぞれ新幹線等の鉄道や高速自動車国道・一般国道が整備されており、関西と九州、四国と山陰を結ぶ交通結節点としても重要な役割を担っている。

出 所：(人口)総務省「令和2年国勢調査」(出生率)厚生労働省「人口動態統計」「人口動態保健所・市区町村別統計」(面積)各市町HPより

	福山市 (連携中枢都市)	三原市	尾道市	府中市	竹原市	世羅町	神石高原町	笠岡市	井原市
人口(人) 2020年	460,930	90,573	131,170	37,655	23,993	15,125	8,250	46,088	38,384
面積(km ²) 2024年	517.72	471.51	284.89	195.75	118.23	278.14	381.98	136.07	243.54
出生率 2018-22年	1.60	1.40	1.42	1.31	1.36	1.64	1.53	1.26	1.40

1-1. 連携地域の概要



(注) 1. 数値の単位未満は、原則として四捨五入しているため、総数等と内訳の合計が一致しない場合がある。(以下同じ)
 2. 年齢「不詳」の者の数は、不詳以外の年齢3区分の構成比に応じたあん分等により補完している。(以下同じ)

- 社人研の将来推計人口によると、備後圏域の人口減少はこれまでを上回るペースで進むことが予測され、2020年以降、5年ごとに3万人以上の減少が見込まれる。
- 備後圏域全体の人口は、2030年には80万人、2040年には70万人を下回る見込み。

1-1. 連携地域の概要

●備後圏域内の幼児教育・保育施設一覧

(参考) 2025年10月1日時点の幼児教育・保育施設数の一覧 (各市町照会)

自治体名	保育所				認定こども園												幼稚園				地域型				合計
					幼保連携型				保育所型				幼稚園型												
	公	私	国	計	公	私	国	計	公	私	国	計	公	私	国	計	公	私	国	計					
福山市	43	18		61	2	54		56		2		2		3		3	7	10		17		35		35	174
三原市	8	4		12	2	9		11				0	1	4		5	2	1	1	4		4		4	36
尾道市	6	10		16		10		10	3	3		6		3		3	4	5		9		2		2	46
府中市	4	4		8		1		1				0				0		1		1		3		3	13
竹原市				0	1	5		6	2			2				0				0				0	8
世羅町	3			3		3		3				0				0				0				0	6
神石高原町	5			5				0				0		1		1				0				0	6
笠岡市		1		1	6	8		14				0				0	1			1		3		3	19
井原市	2	7		9				0				0				0	12			12	1	2		3	24
	71	44	0	115	11	90	0	101	5	5	0	10	1	11	0	12	26	17	1	44	1	49	0	50	332

2. 幼児教育・保育の質の向上に向けた 人材育成の広域化と人材確保に係る事業概要

2-1. 背景と目的

背景

- 近年、支援が必要な幼児は増加傾向にある中で、当該幼児を教育・保育するためには、保育士等の加配が必要となることもあり、現場の人材不足が共通の課題となっている。
- 専門的な知識が必要となる障がい児保育等の研修の実施に当たっては、当該分野を研究する大学教授等が講師となり、最新の研究内容や子どもを取り巻く状況を、現場の職員に伝え、実践できるよう支援することが求められる。福山市では、そうした専門人材のリソースには限りもあることから、一部の研修について、圏域市町の職員も対象としてきたが、新たに、全体的に整理し、更なる広域化を検討するもの。

目的

【人材確保】

- 共通課題である人材不足に対し、圏域の学生を対象に、幼児教育・保育現場の魅力を発見、体験できる機会を提供することで、将来的な人材確保につなげる。

【人材育成】

- 市町がそれぞれ実施する障がい児保育等の幼児教育・保育に関する人材育成プログラムを体系的に整理し、研修の広域化を検討することで、圏域における幼児教育・保育の質の向上につなげる。

【人材定着】

- 幼稚園教諭・保育士へのカスハラ行為について、予防等の相談に応じる専門の相談人材の配置の検討・対応する圏域共通のマニュアル作成や専門の相談人材の配置を検討し、安心して働ける環境づくりにつなげる。

2-2. 本事業での取組み内容について

①連携するにあたっての課題

- 備後圏域は、広島県と岡山県という県が異なる市町の広域連携であり、圏域で事業を展開していく際に必要に応じてそれぞれの県の意向を確認する必要がある。
- 圏域市町間での連携にあたり、各市町内で教育委員会と首長部局とそれぞれ調整が必要となる。
- 各市町における幼児教育・保育の取組内容の独自性や、各市町と公立園または私立園との対する距離感の違いにより、連携内容によっては調整に時間を要する側面がある。

②連携に向けた取組・役割分担

- 2023年（令和5年）に保育施策の連携を検討するために立ち上げた7市2町で構成する「備後圏域保育施策検討会議」の枠組みを活用し、人材育成プログラムの広域化や保育人材確保・定着に向けた取組を議論する。
- 連携中枢都市である福山市が専門人材の確保や研修等の事業実施を中心となって行い、連携市町が事業実施に関する調査協力を行う。なお、各市町において特色ある人材育成プログラムを有する場合は、圏域市町全体の人材育成の質の向上のため、実施主体となる。

備後圏域市町	役割
福山市（連携中枢都市）	調査・研究を踏まえた事業実施
三原市	事業実施に関する調査協力 ※実施主体も想定
尾道市	
府中市	
竹原市	
世羅町	
神石高原町	
笠岡市	
井原市	

2-2. 本事業での取組み内容について

③取組に対する課題と解決方法について

人材確保(幼児教育・保育現場の魅力発信)

【取組前に想定した課題】

(広域連携で実施する際の課題)

- 立地・交通事情により広域実施が困難な可能性あり
…①

(取組に関する課題)

- 幼児教育・保育の魅力をどのように伝えるか…②
- 事業に興味関心をもつ年代がわからないなど需要が不明…③

【解決方法・工夫】

(①④に対する方策)

- 保育体験・セミナーを1日で体験するイベントにバス移動を活用し、備後圏域内沿線である福山駅を集合場所に設定することで、圏域内からの参加に係る立地・交通問題への解決を図った。
- セミナー及び大学生との交流をオンラインとのハイブリッド開催にすることで、圏域内からの参加に係る立地・交通問題への解決を図った。

(②③…に対する方策)

- 保育施設での保育体験の初開催を企画し、実際にこどもに関わる希少性の高い企画により学生の興味関心の対象となるように工夫した。
- 指定保育士養成校と連携したセミナーの実施・大学生との交流を企画し、こどもの関わる楽しさに加え、進学への意欲につながる内容を工夫した。

(⑤⑥…に対する方策)

- 学生が最も進路について考える「オン」の状態である学校への広報に重点を置くとともに、SNSを活用したWeb広告の配信により親世代への情報発信も行い、本人・保護者ともに申し込みができる形式とした。

【取組を通じて明らかになった課題】

(広域連携で実施する際の課題)

- イベント実施にあたり、立地・交通事情による参加需要への影響…④

(取組に関する課題)

- 申込の主体が、学生本人か保護者か…⑤
- 有効な情報発信媒体は何か…⑥

2-2. 本事業での取組み内容について

人材確保

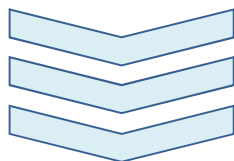
④取組の経緯・進捗

【取組の経緯】

全国的な共通課題である人材確保に加え、福山市所在の指定保育士養成校卒業者の福山市以外への卒業後の流出及び教育・保育分野以外の進路への就職者の増加が課題としてあった。

教育・保育分野への進学・就職を目指す学生を増やすことで、将来的な人材確保につなげることを目的とし、圏域内で唯一、指定保育士養成校がある福山市において、圏域市町及び養成校の連携により魅力発信イベントを企画することとした。

企画に際しては、保育体験により実際にやりがいや魅力を体験し、セミナーで幼児教育・保育の専門性について学ぶことで、関心を深め進学・就職へのビジョンへつなげることを目的とした。



「備後圏域保育施策検討会議」の枠組みを活用し
会議スケジュールを軸にした取組みを進める

【取組の進捗】

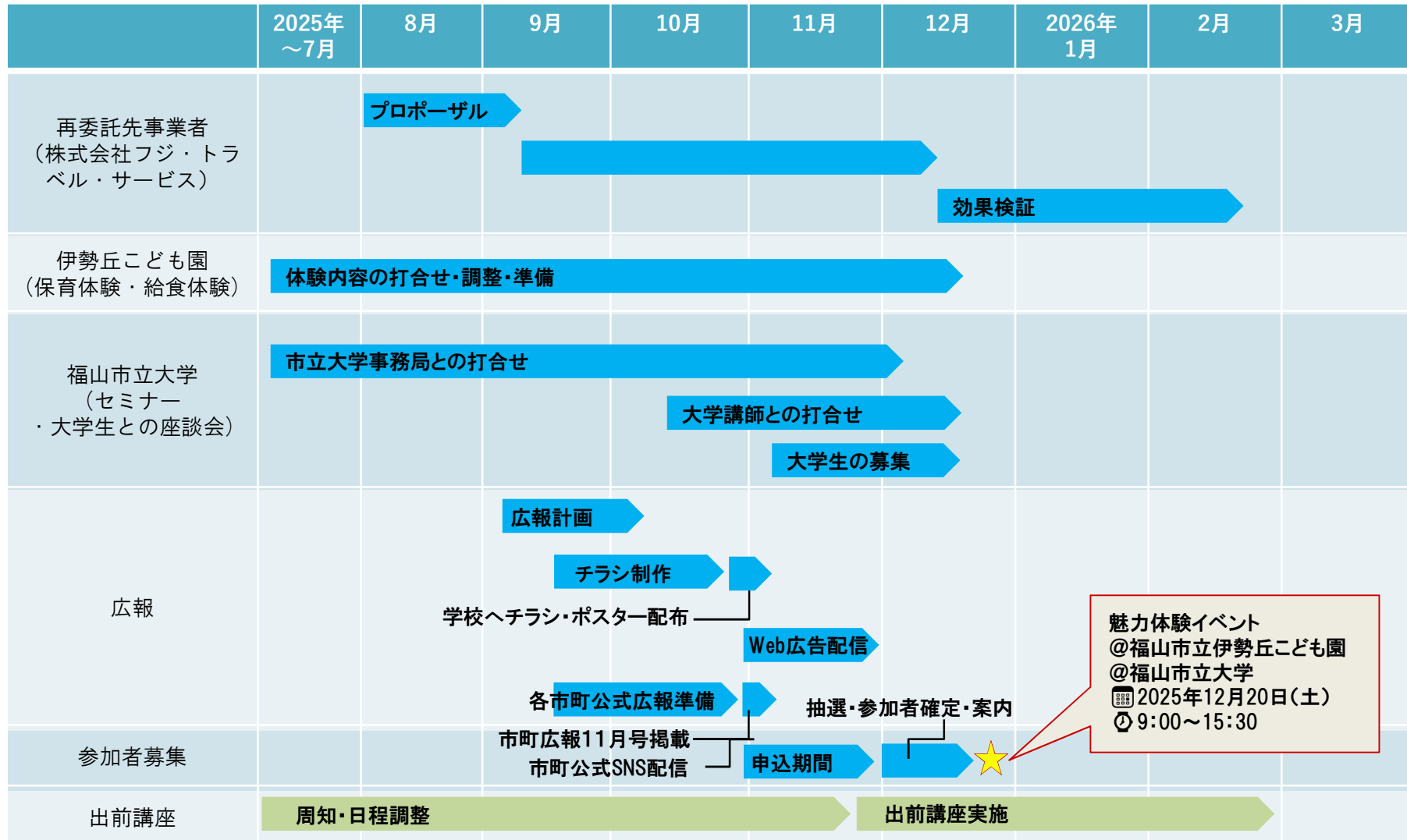
備後圏域保育施策検討会議実施状況

開催日	内容
2025年（令和7年）5月16日（金）	モデル事業の実施に向けた情報共有及び協力依頼
2025年（令和7年）8月21日（木）	事業内容の共有と広報への協力依頼
2025年（令和7年）11月14日（金）	イベントの企画内容詳細及び申込状況の共有
2026年（令和8年）2月17日（火）	イベント結果の報告・次年度以降の課題共有と検討

2-2. 本事業での取組み内容について

人材確保

●タスクスケジュール



2-2. 本事業での取り組み内容について

人材確保

- 保育体験の初開催を企画。
- 実際に子どもに関わる希少性の高い企画により学生の興味関心の対象に。
- 指定保育士養成校と連携したセミナーの実施・大学生との交流を企画。

■ 保育体験・給食体験

福山市立伊勢丘こども園において、3～5歳児と一緒にクリスマス飾りを製作し、子どもと関わる楽しさややりがいなどの魅力を体験・発見する。

給食体験により、食育の観点からも、保育者の子どもへの関わり方、配慮について学ぶ。

■ セミナー・大学生との座談会

福山市立大学において、教育学部 渡邊講師から幼児教育・保育の仕事の専門性について学ぶ。

大学生との交流により、進路選択のきっかけや実習等について関心ある内容を質問することで、進学・就職へのビジョンを明確にする。

【事業の独自性と魅力のポイント】

- ★ 保育施設の見学に留まらず、子どもと関わる保育体験ができる
- ★ 保育施設と大学と行政の連携により、1日で体験・座学・交流を実現

【イベント内容】

日時：2025年12月20日（土）

対象者：備後圏域在住の中高生
（中学生はセミナーのオンライン参加のみ可）

定員：25名（加えてオンライン参加30名）

【伊勢丘こども園】

■ 公立幼保連携型認定こども園

■ 定員 1号15人
2号60人
3号39人

■ 福山市伊勢丘三丁目6番5号



【福山市立大学】

■ 学部 教育学部児童教育学科
・教育コース
・保育コース

■ 福山市港町二丁目19番1号



2-2. 本事業での取り組み内容について

- イベントの会場移動にバス移動を活用。
- 備後圏域内沿線の乗り入れ・起点となる福山駅を集合場所にし、交通問題の解決を図る。
- セミナー及び大学生との交流をオンラインとのハイブリッド開催。



【現地体験】



9:00	福山駅集合
9:30	出発
<バス移動>	
10:00	伊勢丘こども園
	・保育体験
	・給食体験
12:00	出発
<バス移動>	
13:00	福山市立大学
	・セミナー
	教育学部 渡邊真帆講師
	・大学生との座談会
15:00	出発
<バス移動>	
15:30	福山駅解散

人材確保



【オンライン配信】

- 対象者：中高生
 (中学生はオンライン参加のみ可)
- ・セミナー…live配信
 コメント欄で質問等に対応
 - ・座談会…オンライン参加者のグループを作成

2-2. 本事業での取り組み内容について

人材確保

- 圏域内の中高生に対する情報発信

(1) 市町各学校へ、ポスター・チラシを配布

学生が進路について考える「オン」の場所は学校であると考え、学校へのポスター・チラシの配布へのコストを重視した。

	福山市	三原市	尾道市	府中市	竹原市	世羅町	神石高原町	笠岡市	井原市	合計
高校	24	5	8	3	2	1	1	4	3	51
中学校	32	12	15	4	4	3	2	6	5	83

中学校には、各市町と連携し、連絡便等の手段を活用し、所在地の市町から直接依頼・周知を行うことで、初年度事業の認知度向上を図った。

申込者のアンケートにおいて、当該イベントを知ったきっかけで多かった回答は「チラシ・ポスター」「学校の紹介」だった。(複数選択)

※チラシ・ポスター 23/39人
学校の紹介 21/39人

中・高校生のみなさん対象!
保育であつながらミライ発見!

2025 12/20(土)開催

保育の仕事の魅力体験

25名参加募集

参加費無料

参加特典 ナチュラルトートバッグプレゼント!

当日スケジュール

12/20(土)

9:00集合 / 9:30出発

伊勢丘こども園 保育施設内にて保育体験 給食体験 (10:00~12:00)

福山市立大学 大学教員による保育セミナー 質問コーナー (13:00~15:00)

15:30解散

お申込み締切 11月30日(日)

参加対象者 高校生及び中学生

参加人数 25名(オンライン参加30名)

主催 福山市 保育施設課

お問合せ先 保育の魅力発信事業運営事務局 (フジトラベルサービス福山東店内)

TEL:080-2976-6061

2-2. 本事業での取組み内容について

人材確保

(2) Web広告の配信

配信期間：2025/11/6～11/30

※11/23～11/26は委託事業者HPメンテナンス閉鎖のため中断

対象者：中高生（13歳～18歳）/男性・女性

親世代（38～58歳）/男性・女性

※属性指定…こどもがいる親等

配信エリア：備後圏域市町

（三原市・尾道市・福山市・府中市・竹原市・世羅町・神石高原町・笠岡市・井原市）

配信期間中の結果合計

リーチ(人)	表示回数(回)	クリック数(回)	クリック率(%)
43,579	140,030	587	0.42

期間別リーチ数

期間	リーチ(人)
11月6日(木)～11月7日(金)	9,055
11月8日(土)～11月14日(金)	14,712
11月15日(土)～11月21日(金)	11,901
11月22日(土)～11月28日(金)	19,631
11月29日(土)～11月30日(日)	7,544

※期間中に複数の広告設定を実施しているため、各リーチ数に重複ユーザーが含まれており合計数との乖離があります。

ターゲット別配信ごとの数値(参考)

目的	リーチ(人)	表示回数(回)	クリック数(回)	クリック率(%)
中・高校生向け 申込訴求及びLP遷移	19,843	88,048	296	0.34
親向け 申込訴求及びLP遷移	26,778	51,982	291	0.56

※期間中に複数の広告設定を実施しているため、各リーチ数に重複ユーザーが含まれており合計数との乖離があります。

初開催イベントであることから、イベント認知のためにもWeb広告は有効であったと考えるが、申込者アンケートでの、当該イベントを知ったきっかけで「Web広告」と回答した数は少なかった。
(3/39人)
配信期間を申込期間前から設定するなど工夫が必要。

(3) 備後圏域市町との連携（広報）

- Web広告に加え、市町公式SNSから発信。（福山市の投稿をリポスト、シェア）
- 市町広報への掲載（広報誌及び電子版）
- 公立中学校への各市町からの送付による依頼・周知

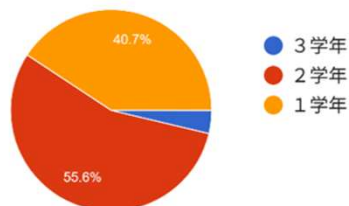
2-2. 本事業での取組み内容について

人材確保

【イベント実施後のアンケート結果】（抜粋）

Q1.学年を選択してください。

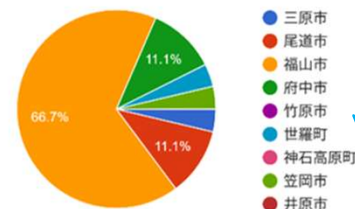
	全体	3学年	2学年	1学年
実数	27	1	15	11
構成比	100%	3.7%	55.6%	40.7%



開催が12月だったこともあり、進路がすでに決まっていることや、受験時期直前であることから高校3年生からの申し込みは少なかったと推測される。

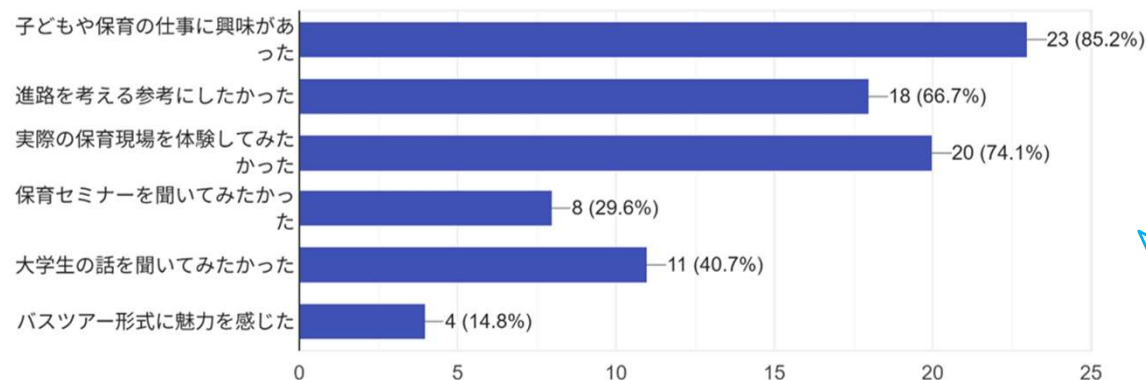
Q2.在住市町を選択してください。

	全体	三原市	尾道市	福山市	府中市	世羅町	笠岡市
実数	27	1	3	18	3	1	1
構成比	100%	3.7%	11.1%	66.7%	11.1%	3.7%	3.7%



開催地が福山市であるにも関わらず、福山市以外の圏域市町からの参加申し込みがあった。福山駅沿線にない世羅町・神石高原町からの参加が困難かと危惧していたが、世羅町からの申込あり。交通面の課題をクリアすれば広域化できる事業と評価できる。

Q4.当イベントに参加した理由は何ですか？（複数選択可）



保護者からの申込ではなく、高校生が主体的に自身で申込を行ってきた。（システムはどちらからでも申込可）参加者27人とも、意欲的で体験中も子どもとの関わり、大学生徒の座談会での質問も積極的だった。企画内容について、学生が興味を持てる内容であったと評価できる。

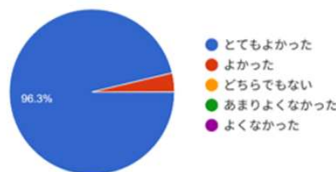
2-2. 本事業での取り組み内容について

人材確保

【イベント実施後のアンケート結果】（抜粋）

Q6.伊勢丘こども園での保育体験・給食体験についての満足度を教えてください。

	全体	とてもよかったです	よかったです	どちらでもありません	あまりよくなかったです	よくなかったです
実数	27	26	1	0	0	0
構成比	100%	96.3%	3.7%	0.0%	0%	0%



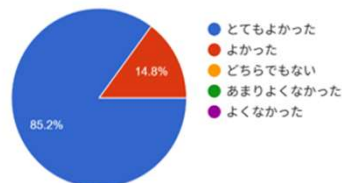
バス移動の時間を活用し、体験の中でこどもと関わる先生の姿や声かけにも注目してほしい旨のアナウンスを依頼した。
こどもと関わって楽しいという表面的な感想だけに留まらず、幼児教育・保育に従事する先生の姿・配慮に触れることが、学生の印象に残った様子が評価できる。

【体験を通じて感じたこと（自由記述）】

- ・とにかく楽しかった。あの短時間で子供の成長を感じることができるのが凄く魅力に感じた。
- ・目の前で子供の発言や行動を見れたのが嬉しかったし、子供の感情の変化や興味関心の動きを間近で感じれたのはとても良い経験でした。
- ・先生方の子供達との接し方や給食のとき食べなかった子などの声かけの仕方など印象に残りました。
- ・いろいろな子供達をみて、個性がそれぞれなのにそれをとりまとめる保育士さんは素晴らしいなと思った

Q8.福山市立大学での保育セミナー・大学生への質問コーナーについての満足度を教えてください。

	全体	とてもよかったです	よかったです	どちらでもありません	あまりよくなかったです	よくなかったです
実数	27	23	4	0	0	0
構成比	100%	85.2%	14.8%	0%	0%	0%



午前の伊勢丘こども園での体験にからめ、幼児教育・保育の専門性を学ぶことで、こどもと遊ぶだけではない、具体的な仕事像が見えた学生が多かった。また、大学生との座談会の開催により、年齢的にも近く質問しやすく、自らに近い将来像が見え、不安が解消した学生が多かったと見受けられるため、企画内容が学生の需要に沿ったものであったと評価できる。

【セミナー・座談会を通じて感じたこと（自由記述）】

- ・保育者にどんな役割があるのか、どんな態度が必要なのかがよく印象に残りました。
- ・動画や質問タイムをして自分が知らなかったことや子供との接し方について学べてよかったです。
- ・いろいろな学生が授業について教えてくれてとても関心が持てた。
- ・実際の講義に近い様な授業を受けることができてよかった。
- ・自分が不安に思っていたことを全部聞くことができた

2-2. 本事業での取り組み内容について

人材確保

- 出前講座による魅力発信

【取組内容】

出前講座の共通教材を作成。福山市内で出前講座を実施し、内容の整理や効果検証を行った。

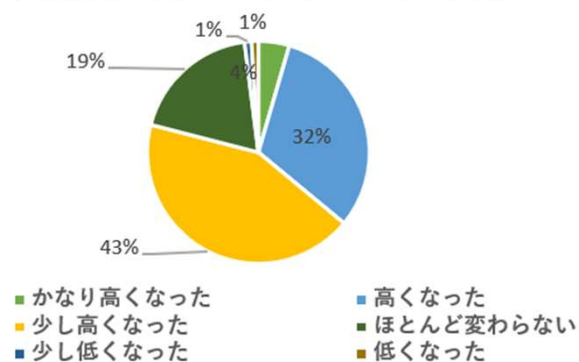
【目的】

保育の仕事について、やりがいや、こどもと関わる視点などを、経験談を交えながら魅力を伝えるとともに、養成校への進学や資格取得について伝えることで、教育・保育分野に興味を持ち進路の選択肢として考えるきっかけとなることを目指す。

【アンケート結果（抜粋）】

問5 出前講座を受講した後、あなたの保育の仕事への関心は変わりましたか。

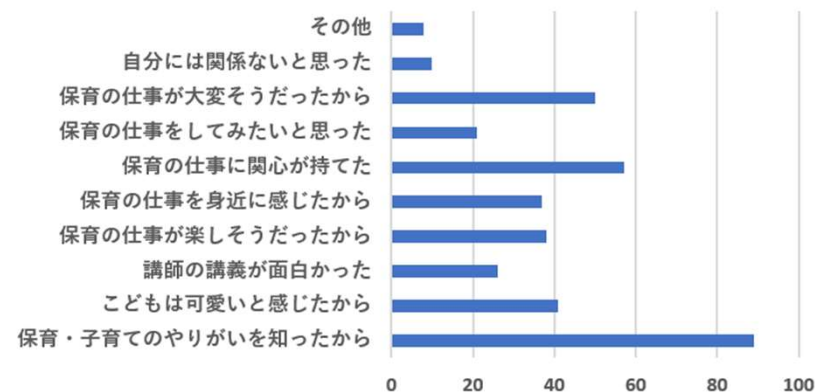
受講後の保育の仕事への関心度



【実施校一覧】

	学校名	実施日	学年	人数
1	福山市立加茂中学校	2025/11/27	3年生	90~100人
2	福山市立東中学校	2026/1/29	1年生	20人程度
3	福山市立新市中央中学校	2026/2/24	2年生	80人
4	福山市立新市中央中学校	2026/2/24	2年生	80人

問5で選んだ理由（複数回答）



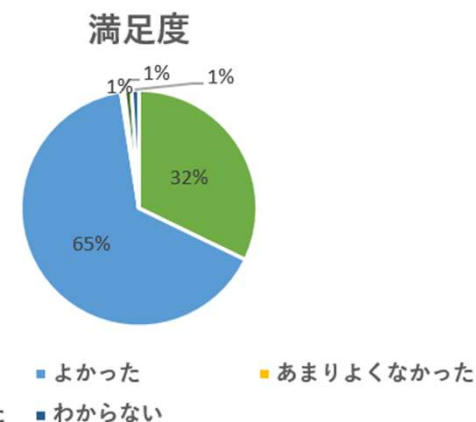
2-2. 本事業での取り組み内容について

人材確保

問11 (保育の仕事に関心がある方及び関心を持った方のうち) 保育の仕事に関心を持った理由について教えてください。【自由記述】

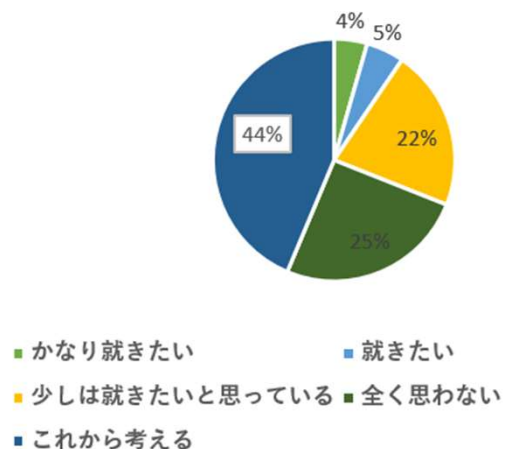
- ・職場体験のときに大変だったけど、こどもが可愛かったしやりがいを感じたから。
- ・今まで、保育の仕事に就く人がどのような気持ちで仕事に就いているか疑問だったけれど、今回の講座でわかったから。
- ・元々知り合いに保育の仕事をしている人がいて興味があったが、今回の講座で、より中身を知ることができ興味が増えたから。
- ・こどもが喜んでくれるから。
- ・職場体験で、こどもがたくさん声をかけてくれ元気をもらったから。
- ・こどもの成長を支えられるのがおもしろそうだったから。
- ・こどもと遊ぶのが楽しいし、こどもたちの笑顔が好きだから。
- ・こどもたちと遊ぶ先生が楽しそうだったから。

問8 本日の出前講座の満足度を教えてください。



問12 (保育の仕事に関心がある方及び関心を持った方のうち) 将来、保育の仕事に就きたいと思いませんか。

将来保育士になりたいか



【取組の成果と課題】

- ・家庭科や生涯学習のカリキュラムと内容が合致した中学校からは、話してほしい内容など、具体的な要望があった。
- ・校長会で周知し申込を募ったが、中学校のカリキュラムが決まっており新たな事業の受入れが難しい面があった。
- ・いずれの回も、講座前から、教育・保育の仕事に興味を持った生徒がおり、出前講座にも前向きな姿勢で受講し、積極的に質問をもらえた。
- ・総じて「とてもよかった」「よかった」で97%と高い満足度に至った。

2-2. 本事業での取り組み内容について

⑤ 解決できなかった課題と解決に向けた展望

【解決できなかった課題】

- 立地・交通事情による参加需要への影響を考え、オンライン参加を設定したが、十分な需要がなかった。
- 公平性を保つため抽選で参加者を決定したが、抽選後に申込者と連絡を取ることに苦慮した。
- 12月開催により、高校3年生の申込が少なかったこと、感染症の流行期であることから、効果的な開催時期の検討が必要。
- 魅力発信の出前講座について、共通教材を作成したが、出前講座開催回数が4回と伸び悩んだ。

【解決に向けた展望】 「備後圏域保育施策検討会議」の枠組みを引き続き活用…

- 現地参加への需要が高いことがわかったため、福山市北部エリアの指定保育士養成校との連携を視野に入れ、世羅町・神石高原町・井原市など備後圏域北部エリアからの参加需要への対応策を検討する。
- 抽選方式から先着方式に変更を検討する。その際は広報を前倒し、Web公告で予告を行うとともに、各学校には申込開始に余裕をもったタイミングでのチラシ送付を行う。
- 夏開催を視野に入れ、効果的な開催時期を検討する。
- 出前講座について、中学校のカリキュラムが決まっており新たな事業の受入れが難しい面もあったため、教育委員会との連携や、連盟や教職員の研修の場など、周知の幅を広げ事業の知名度を上げることで、前年度のカリキュラム作成段階での組み込みを可能とする仕組みづくりをする。

2-2. 本事業での取組み内容について

③取組に対する課題と解決方法について

人材育成(研修の広域化)

【取組前に想定した課題】

(広域連携で実施する際の課題)

- 各市町の人材育成に関する研修の実施状況が不明。…①
- 各市町において幼児教育・保育の取組方針が異なる。…②

(取組に関する課題)

- 施設の人員規模や参加方法によって、現場職員の参加が困難。…③

【取組を通じて明らかになった課題】

(広域連携で実施する際の課題)

- 研修実施の際の市町の役割分担が不明確。…④

(取組に関する課題)

- 研修対象を公立園のみや施設種別により制限することがある。…⑤

【解決方法・工夫】

(①②③に対する方策)

- 保育施策の連携を検討するための「備後圏域保育施策検討会議」の枠組みを活用し、各市町の担当者を通じて、それぞれの市町におけるニーズの高い研修分野や参集型や配信型などの研修の実施方法、広域化の可否などを調査し、更なる研修の広域化の充実を図った。また、人材育成における課題に対する見解を迅速に共有することができ、スピード感のある課題解決の一步を踏み出すことができる。

(④に対する方策)

- これまで福山市が主体となり取り組んできた際の各市町の役割分担のカタチを活用することで、連携市町が研修の実施主体となった場合も、各市町の役割を明確に分担することができる。

(⑤に対する方策)

- 各市町の研修の取組状況を共有し、所属や種別により参加対象の制限が適当かを再検討する。

2-2. 本事業での取組み内容について

④取組の経緯・進捗

人材育成

【取組の経緯】

専門的な知識が必要となる医療的ケア児や障がい児保育等の研修の実施に当たっては、当該分野を研究する大学教授等が講師となり、最新の研究内容や子どもを取り巻く状況を、現場の職員に伝え、実践できるよう支援することが求められる。福山市では、そうした専門人材のリソースには限りもあることから、一部の研修について、圏域市町の職員も対象としてきたが、新たに、全体的に整理し、更なる広域化を検討する。

また、これまで福山市では、障がい児保育等を充実させるため、研修等の人材育成、施設への人員配置など、公の役割として主体的に担ってきた。市町単独で専門人材の確保等が困難な中で、今後も、質の高い幼児教育・保育サービスを提供できるよう、圏域における人材育成等のあり方を検討する。

【取組の進捗】

「備後圏域保育施策検討会議」の枠組みを活用し、その会議スケジュールを軸に取組みを進めた。

備後圏域保育施策検討会議実施状況	
開催日	内容
2025年（令和7年）5月16日（金）	モデル事業の実施に向けた情報共有及び協力依頼
8月21日（木）	研修に関する各市町の意見交流
11月14日（金）	各市町へ実施した研修に関する調査結果を共有
2026年（令和8年）2月17日（火）	来年度広域化する研修と広域化の検討を継続していくことを確認

2-2. 本事業での取組み内容について

人材育成

●タスクスケジュール

	2025年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	2026年 1月	2月	3月
市町調査	▶								
講師調整	▶								
実証事業		▶							
体系的整理		▶							
結果の共有								▶	

●調査概要

調査内容:各市町における研修の実施状況、広域化の可否、
テーマや実施形式などのニーズ調査のため、調
査票を作成し、回答を求めた。

回答期間:2025年(令和7年)7月16日～同月30日

対 象:備後圏域市町

質問事項	回答内容										
1 次年度の研修計画の作成について	申込時期・・・()月・締切時期・・・()月										
2 「研」の場合は、研修計画等を添付してください。											
3 今年度の実施予定(または済済)の専門的な研修(外部講師による講演など)があれば、教えてください。 ※必要に応じて行を追加してください。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>①研修名</th> <th>②対象者</th> <th>③内容</th> <th>④研修の広域化</th> <th>備考欄</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小研修の広域化の進捗 1 今年度から広域化可能 2 来年度から広域化可能(検討) 3 広域化困難 4 その他 ※1, 2を選択した場合、 備考欄へ開催時期を入力。 ※3, 4を選択した場合、 備考欄へ理由を入力。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	①研修名	②対象者	③内容	④研修の広域化	備考欄	小研修の広域化の進捗 1 今年度から広域化可能 2 来年度から広域化可能(検討) 3 広域化困難 4 その他 ※1, 2を選択した場合、 備考欄へ開催時期を入力。 ※3, 4を選択した場合、 備考欄へ理由を入力。				
①研修名	②対象者	③内容	④研修の広域化	備考欄							
小研修の広域化の進捗 1 今年度から広域化可能 2 来年度から広域化可能(検討) 3 広域化困難 4 その他 ※1, 2を選択した場合、 備考欄へ開催時期を入力。 ※3, 4を選択した場合、 備考欄へ理由を入力。											
4 今年度以降の研修の企画、実施してほしい、あったら良いと思う研修のテーマや実施形式を教えてください。											
5 自由記述欄											

2-2. 本事業での取組み内容について

人材育成

・2025年度実施した研修内容

開催日時:2025年(令和7年)8月1日(金)15時00分~17時00分

参加対象:備後圏域市町及び公私立の幼稚園・保育所・認定こども園・地域型保育事業の職員

参加方法:オンライン

研修内容:「こどもの権利を保障し10の姿を育むためのダイバーシティ保育・インクルーシブ保育」
—主体的かつ効果的に学校で学び、社会で働く力を育むには—

➡ 研修の参加申込数は圏域全体で108施設

・2026年度広域化予定の研修一覧

自治体	研修名	対象者	概要	予定時期
福山市	障がい児保育・特別支援教育講演会	制限なし	障がい児保育について	8月上旬
福山市	保育施設における安全対策研修会	制限なし	就学前施設の事故防止リスクマネジメント	6~8月
福山市	カスタマーハラスメントに関する研修	制限なし	2025年度作成のマニュアルをもとに研修	未定
府中市	保育施設等研修会	制限なし	(※研修内容は現在検討中)	2月中旬
三原市	保育者研修会(発達支援講演会)	制限なし	発達支援に関する事例検討会、講演会	未定

2-2. 本事業での取り組み内容について

⑤ 解決できなかった課題と解決に向けた展望

人材育成

【解決できなかった課題】

- オンライン研修の普及により、参集型の研修に比べ、移動する負担は軽減されたものの、現場の人員不足により、オンライン研修をリアルタイムで視聴することが難しい。
- 各市町における、公立私立間の関係性、教育及び保育分野間の境界の存在により、一体的な動きが取りづらい側面がある。市町内の広域化から圏域への広域化に向けた過渡期のような状況にある。
- 研修開催に伴う各市町の費用負担に関する取り決めがない。また、費用負担が発生する場合、各市町の財政状況の違いにより、実施できない場合が想定される。

【解決に向けた展望】 「備後圏域保育施策検討会議」の枠組みを引き続き活用…

- 研修の録画配信に向け、講師との調整や通信機材の調達を検討し、いつでもどこでも視聴できる環境づくりを検討する。一方で人員不足という根本的な課題に対して、本事業内でも実施した中高生を対象とした保育体験プログラムや出前講座などを実施し、次世代の担い手の確保に向けた取り組みを圏域全体で取り組んでいく。
- 県と連携し研修・事例検討を行うなど、発達に課題があるこども、気になるこどもへの関わりという共通の検討事項について、広い視野で知見を重ねていく。
- 圏域全体で一体となって教育・保育サービスの更なる質の向上のため、各市町における公立私立や教育保育間での取り組みを共有し、動きやすい体制づくりをめざす。
- 費用負担について、各市町での取り決めを検討する。また、さらなる人材育成プログラムの体系化を進め、各市町で重複する研修をスマート化し、相互に補完しあうことで、既存の限られた財源等のリソースを活用し、圏域全体の教育・保育の質の向上につなげる。

2-2. 本事業での取組み内容について

③取組に対する課題と解決方法について

人材定着(カスタマーハラスメント共通マニュアル作成・専門人材の配置)

【取組前に想定した課題】

(広域連携で実施する際の課題)

- 各市町のカスハラに対する取組や方針の違い。…①
- 地理や生活環境などの地域性による違い。…②
- 各市町の財政力や人員規模の違い。…③

(取組に関する課題)

- マニュアルの未整備。…④

【取組を通じて明らかになった課題】

(広域連携で実施する際の課題)

- 教育・保育施設の類型や地域性により、カスハラに対する内容や温度感が大きく異なる。…⑤

(取組に関する課題)

- 相談窓口について、カスハラに特化するのか、もしくは仕事内容や人間関係の悩みなどの総合的な窓口とするのか。…⑥
- 専門人材について、自治体職員や弁護士などどのような人材を求めているのか。…⑦

【解決方法・工夫】

(①②に対する方策)

- 保育施策の連携を検討するための「備後圏域保育施策検討会議」の枠組みを活用し、各市町の担当者を通じて、それぞれの市町における法制度や取組みについて確認し、意思決定を行っていく。

(③④⑤に対する方策)

- 圏域内の教育・保育施設に対してカスハラに対する事例収集及び相談窓口に関するアンケートやヒアリング調査を実施し、圏域内の事例を取り入れた共通マニュアルを作成する。

(⑥⑦に対する方策)

- 相談窓口の先行自治体へ設置の経緯や体制などのヒアリング調査を実施する。

2-2. 本事業での取組み内容について

④取組の経緯・進捗

人材定着

【取組の経緯】

幼児教育・保育現場においては、保護者から苦情等が寄せられることも多く、精神的な負担となっており、離職率が高くなる一因となっている。

人材定着のため、カスハラ行為等の予防・対応に対して圏域で共通の対応マニュアルの作成や専門の相談人材を配置し、就職後も、安心して働き続けることができる環境づくりにつなげる。

また、備後圏域で取り組むことにより、各市町で作成するよりも、コストを抑え、事例収集などを効率的に行う。

【取組の進捗】

「備後圏域保育施策検討会議」の枠組みを活用し、その会議スケジュールを軸に取組みを進めた。

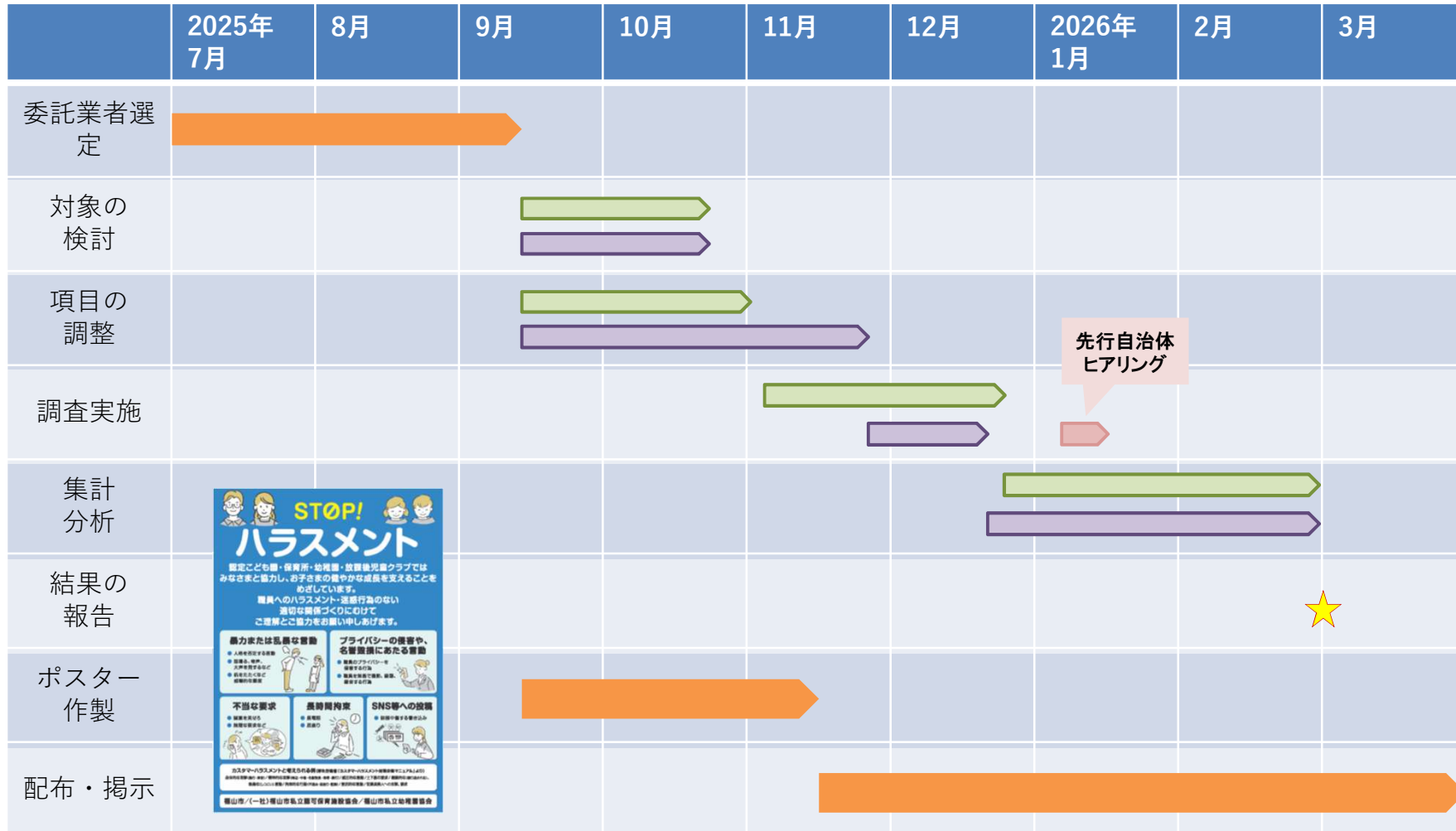
備後圏域保育施策検討会議実施状況※担当委会含む	
開催日	内容
2025年（令和7年）5月16日（金）	モデル事業の実施に向けた情報共有及び協力依頼
8月21日（木）	事業内容と今後のスケジュールの共有
10月8日（水）※	全施設へ実施するアンケート項目の検討
11月4日（火）※	施設へのヒアリング調査に関する内容や調整の共有
11月14日（金）	事業の進捗の共有と意見交換
2026年（令和8年）2月17日（火）	来年度に向けたマニュアルの活用方法に関する検討 専門人材に関する調査結果を踏まえたうえで検討を加速していくことを確認

2-2. 本事業での取組み内容について

●タスクスケジュール

人材定着

➡…アンケート ➡…ヒアリング



2-2. 本事業での取組み内容について

人材定着

・調査概要

カスタマーハラスメントに対する備後圏域共通の対応マニュアル作成のための事例収集及び専門人材の相談窓口の設置に関するアンケート・ヒアリング調査を実施した。

アンケート調査

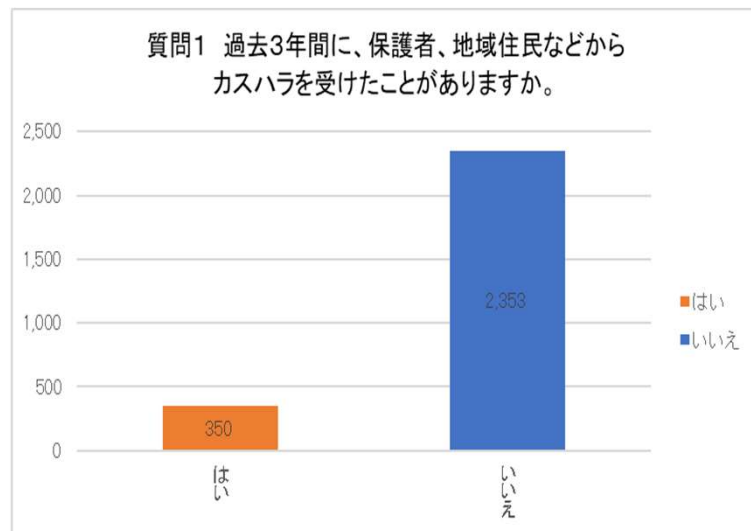
調査期間:2025年(令和7年)11月4日(月)~同月28日(金)

調査対象:備後圏域内の教育・保育施設及び各市町の教育・保育担当課の職員

調査方法:Web上のアンケートフォームへ回答

➡ **回答者数は圏域全体で2,703名**

※アンケートの結果(一部)



【質問項目】

質問1.過去3年間に、保護者、地域住民などからカスハラを受けたことがありますか。

質問2.(質問1で「はい」と回答した方)

どのくらいの頻度で発生しましたか。

質問3.(質問1で「はい」と回答した方)

カスハラを受けた相手は誰ですか。

質問4.(質問1で「はい」と回答した方)

受けたカスハラの内容を教えてください。

質問5.(質問1で「はい」と回答した方)

カスハラが発生した際、どのように対応しましたか。

質問6.(質問5で何かしらの対応をしたと回答した方)

そのカスハラ事案は最終的に解決しましたか。

質問7.カスハラに該当するかどうか悩む事例があれば記載してください。

質問8.カスハラに対するマニュアルやフローは事業所内にありますか。

質問9.カスハラが発生した際の相談窓口は事業所内で確立されていますか。

質問10.(役職を「施設長」又は「副施設長・教頭」と選択した方)

カスハラに関して、外部の相談体制を希望しますか。

質問11.(質問10で「はい」を選択した方)

どのような相談人材を希望しますか。

質問12.(質問10で「いいえ」を選択した方)

理由を教えてください。

質問13.カスハラに関して、希望するものを挙げてください。

質問14.その他(カスハラに関すること)

2-2. 本事業での取組み内容について

人材定着

ヒアリング調査

①教育・保育施設へのヒアリング調査

調査期間:2025年(令和7年)11月26日(水)~同年12月5日(金)

調査対象:備後圏域内の教育・保育施設のうち25施設へ実施

調査方法:電話・オンライン

②先行自治体へのヒアリング調査

調査期間:2026年(令和8年)1月8日(木)~同月9日(金)

調査対象:先行自治体(3自治体)

A自治体

方針やマニュアルの整備により
組織的対応を強化

- カスハラへの対応フローを明確化し、現場の負担軽減を図った。
- 市内すべての施設及び保護者に対して、カスハラ対応に関する文書を送付。
- ポスターの作成及び掲示。

B自治体

保育士支援の専用相談窓口

- 市内で従事する保育士を対象に、カスハラだけでなく、人間関係や労働環境など様々な困りごとに対して相談を行うことができる。
- 保育現場に詳しい専門家(社会保険労務士)が対応。

C自治体

カスタマーハラスメント特化の
全業種対応の相談窓口

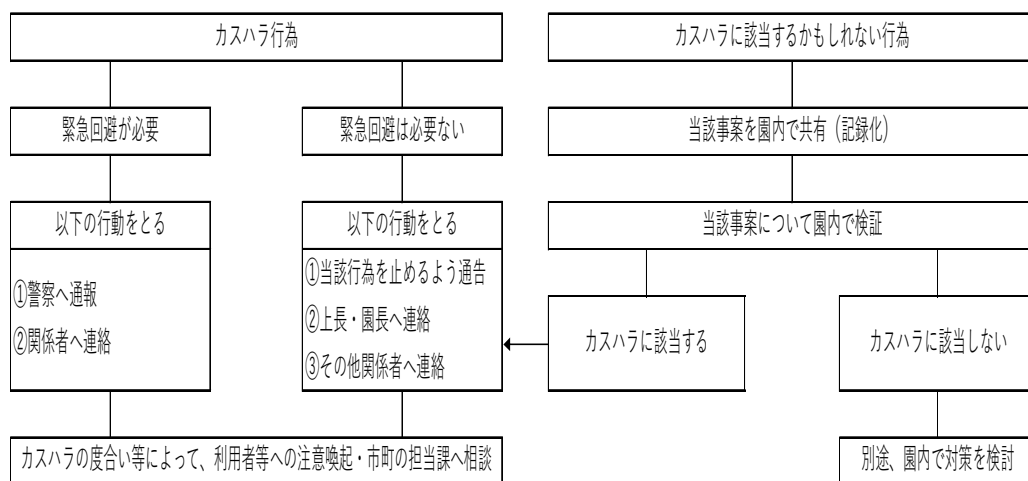
- 事業者、就業者、顧客等すべての立場を対象とし、助言や情報提供を行う。
- カスハラに関する情報発信について、アニメーションなどを使用し、分かりやすい工夫を行っている。

2-2. 本事業での取組み内容について

・カスタマーハラスメントに対する圏域共通マニュアルの作成

備後圏域内の教育・保育施設の職員等に実施したアンケート及びヒアリング調査により、収集した事例や傾向などを参考にしたマニュアルを作成。

教育・保育現場で発生した実際の事例を参考に、具体例を用いた判断基準、初期対応の例示やフロー図により、現場職員にとってイメージの掴みやすい内容の構成とした。



※対応フロー図(マニュアルより)

人材定着

【要求過多・過剰サービス型】

- 基本方針：「共感はするが、特別扱いはしない」
- 初動対応：不安の背景を傾聴する。即答せず「園（所）として検討します」と持ち帰る。
- 組織対応：ルールを明文化して回答。「全園児共通方針」を強調する。
- NG行動：その場しのぎの特例対応や、担任個人判断で約束すること。

【長時間拘束・執拗クレーム型】

- 基本方針：「時間と窓口を制限する」
- 初動対応：面談は30分など時間設定する。電話は折り返し対応とする。
- 組織対応：窓口を園（所）長等に一本化し、記録を必ず残す。
- NG行動：時間制限を設けず応じ続ける、同じ説明を口頭だけで繰り返す。

【威圧・暴言型】

- 基本方針：「毅然+感情に巻き込まれない」
- 初動対応：落ち着いた声で事実確認し、暴言が続けば面談終了を宣言する。
- 組織対応：必ず複数で対応し、書面警告も検討する。
- NG行動：曖昧な謝罪を繰り返す、感情的に言い返す。

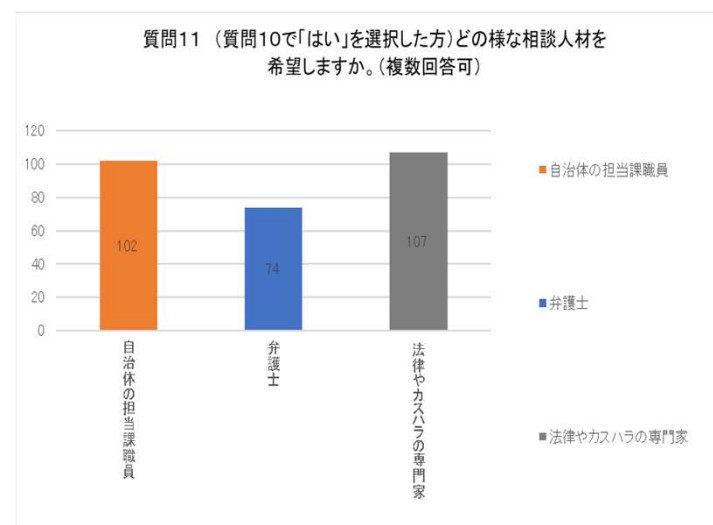
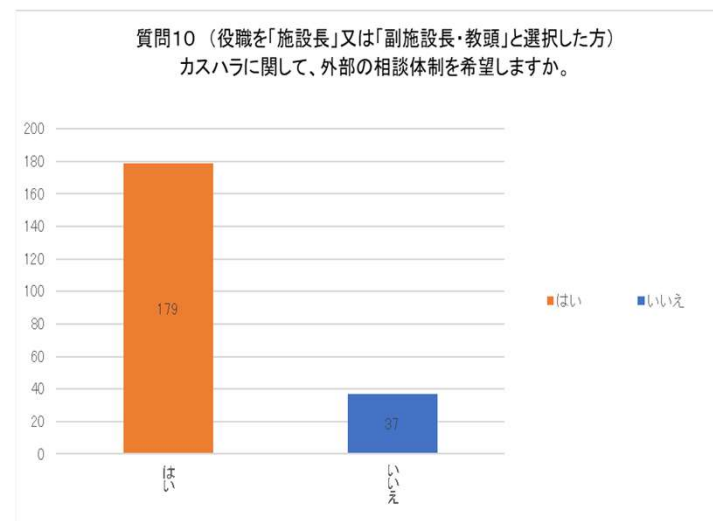
※行為類型ごとの対応策(マニュアルより)

2-2. 本事業での取組み内容について

・専門の相談人材の配置検討

- 施設長などを対象としたアンケートやヒアリング調査より、カスハラに関する外部の相談体制の希望について、回答者の8割超が必要としており、また相談人材として専門家と同水準に自治体の担当課職員を希望する内容であった。
- 先行自治体のヒアリング調査より、窓口の設置は次の点の整理が必要となる。
 - ①相談窓口の目的の明確化
⇒職員保護・心理的支援or社会的啓発など
 - ②対象範囲の設定
⇒公立・私立別orカスハラ特化・総合型など
 - ③行政の関与の度合い
⇒直接介入や助言整理のみなど
- 備後圏域での運用について、上記論点に加え、運営方法や費用負担などのすり合わせが必要となる。

人材定着



2-2. 本事業での取組み内容について

人材定着

⑤解決できなかった課題と解決に向けた展望

【解決できなかった課題】

- マニュアルについて、圏域内の教育・保育施設への一方的な配布だけで終わらせないための活用方法の検討。
- マニュアルの運用方法(内容の修正や削除など)。
- 相談窓口の目的・対象範囲・行政の介入度合についての整理。
- 窓口の設置運営にともなう費用負担。

【解決に向けた展望】 「備後圏域保育施策検討会議」の枠組みを引き続き活用…

- 作成したマニュアルを活用した研修を検討。広域化の研修メニューの一つとすることで、圏域全体での幼児教育・保育サービスの更なる質の向上につなげる。
- マニュアルの運用方法について、各市町と意思統一を図る。
- 相談窓口の設置に向けた目的・対象範囲・行政の役割といった論点の整理を行う。また、初動から圏域展開なのか、または単独で実施し、段階的に展開していくのかを検討する。
- 圏域展開する場合の各市町の費用負担について、財政状況を踏まえた検討を行う。

3. 取組の結果

3. 取組の結果

実施した効果

- 備後圏域での人材確保・人材育成・人材定着の取組に対して、専門性及び効率性の観点で次のとおりの効果があった。

人材確保

- 指定保育士養成校と連携した専門性の高い保育体験を実現でき、また参加した学生の経験談を中心に教育・保育現場への魅力向上につながる。
- これまで教育・保育現場の体験イベントに参加する機会がなかった市町の学生の参加が可能となった。学生にとっての今後を考える機会、市町にとって今後の担い手を育成していく機会とする。
- 各市町で企画・運営・広報という役割分担を行うことで、限られた人員や財源の中で効率的な事業を展開することができる。

人材育成

- 専門人材による研修を広域化することにより、限られた専門人材の有効活用につながるるとともに、圏域全体での教育・保育サービスの質の向上につながる。
- 各市町において実施していない、または実施したくてもできなかった研修を広域化していくことで、教育・保育現場の職員の参加機会を確保することにつながる。
- 各市町で重複する研修をスマート化し、相互に補完しあうことで、既存の限られた財源等のリソースのままで圏域全体の教育・保育の質の向上につながる。

人材定着

- カスタマーハラスメントに対する知識や対応力について、圏域共通のマニュアルを活用していくことで、圏域全体の教育・保育サービスの底上げにつながる。
- 圏域全体で行うことで、より多くの事例に基づく有効なマニュアルを作成できた。
- 専門人材の相談窓口について、圏域全体のニーズを把握する機会となった。
- マニュアル作成や相談窓口の設置検討の調査を行うことで、本来単独で行った際に生じる作業を省略化でき、人員や時間を他の業務に回せる。結果として、効率化とともに行政サービスの質の向上に寄与する。

4. 今後の展望

4. 今後の展望

「備後圏域保育施策検討会議」の枠組みの活用を前提に…

- 人材確保・人材育成・人材定着の取組について、細かな担当者会の開催も検討しながら、引き続き各市町との連携を図り、圏域全体で教育・保育の質の向上につなげる。
- 各市町の人員や業務量、財政状況は年々余裕のない状況である。重複する取組や事業をスマート化し、相互に補完しあうことで、既存の限られた財源等のリソースを活用し、圏域全体の教育・保育の質の向上につなげる。